

令和 5 年 6 月 12 日現在

機関番号：34504

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2022

課題番号：18K11832

研究課題名（和文）仏領ニューカレドニア日本人移民史-写真の表象分析による実態解明とアーカイブ構築

研究課題名（英文）History of Japanese Immigration to French New Caledonia: A Representational Analysis of Photographs to Elucidate the Actual Situation and Construct an Archive

研究代表者

津田 睦美 (Tsuda, Mutsumi)

関西学院大学・総合政策学部・教授

研究者番号：70351236

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,400,000円

研究成果の概要（和文）：コロナウィルス蔓延の時期と重なった本研究は、研究期間を2年延長した上でようやく終了した。予定通りの出張ができず、調査には不十分な点も残るが、それでもなんとかアーカイブとして公開できる目処がつくところまで完成したといえる。これで、ニューカレドニア、フランス、アメリカの公文書館が所蔵する、ニューカレドニア日本人移民に関する写真の収集は終了した。予定していたニューカレドニア政府公文書館での本アーカイブの公開に向けて、翻訳、利用方法などの点検作業を行い、より実用的なアーカイブとして完成させ、次世代の研究者や、日系社会で活用できるようにしていきたい。

研究成果の学術的意義や社会的意義

私は、20年にわたり、ニューカレドニアで多くの日系人の方に出会い、彼らが長年抱えてきた戦争で生き別れた父親への追慕と自分のルーツを知りたいという切実な願いにふれてきた。本研究は、日系二世が高齢化するなか、記憶を継承し、記録の少ないニューカレドニアの日本人移民史を研究していくために、写真の表象分析をした情報を紐付けした「写真アーカイブ」を作成することで、日本人移民史研究やオセアニア地域研究の裾野を広げることをめざした。また、ニューカレドニアの日系社会や、日本の移民母村においても利用できるアーカイブであり、今後、多くの人によって修正、新たな写真や情報が加筆されていくプラットフォームとなるだろう。

研究成果の概要（英文）：This research coincided with the coronavirus epidemic and was finally completed after a two-year extension of the research period. Although the research was not completed as planned, and some aspects of the research remain unsatisfactory, it has been completed to the point where it can be made publicly available as an archive. This collection of photographs of Japanese immigrants in New Caledonia held by the New Caledonian, French, and U.S. archives. In preparation for the planned release of the archive at the New Caledonian Government Archives, we will continue to translate and inspect the archive, and complete it as a more practical archive that can be used by the next generation of researchers and the Nikkei community.

研究分野：視覚芸術

キーワード：仏領ニューカレドニア 日本人出稼ぎ移民史 写真アーカイブ 写真データベース 移民写真の表象分析 日本人コミュニティ 太平洋戦争 オセアニア地域研究

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

本研究のきっかけとなったのは、2016年にニューカレドニア政府公文書館が新たに入手した、1893年に撮影された数枚の写真を見たことだった。これらの写真は、ニッケル鉱山会社の依頼を受けたシドニーの写真家が大判ガラス乾板で、最初の日本人出稼ぎ移民を鉱山近くの宿舎を背景に撮影したもので、黎明期の写真独特の美しさと、豊かなディテールが際立つものであった。それまで、移民監督らの報告書という文字情報でしか理解するしか方法がなかった移民の労働環境は、写真という視覚メディアによって具体的で説得力のあるものになった。

しかし、所蔵先である公文書館は、個々の写真に詳細な説明を付けてはいなかった。そこで、ニューカレドニアだけでなく、日本、フランス、アメリカの公文書館でも写真を収集し、ニューカレドニアの日本人出稼ぎ移民に関する写真アーカイブを作成し、そこに多様な情報を記載すれば、移民の実態を解明するために、多くの人々が利用でき次世代に残せると考えた。

2. 研究の目的

1892年から1919年まで、仏領ニューカレドニアのニッケル鉱山に出稼ぎ契約移民として渡った約5700名の日本人移民についての研究は、満州、北米、ハワイ、ブラジルなど、移民総数の多い地域に比べほとんど進展しておらず、いまだその実態がつかめていない。本研究では、ニューカレドニア政府公文書館が所蔵する写真を中心に、移民初年度から第二次世界大戦終結までの間に、ニューカレドニアで撮影された「写真」に写る「日本人」を探し、いつ、どこで、誰によって何の目的で撮られ、どのような情報が秘められているのかを分析する。それによって、日本人が移民先のニューカレドニア社会でどう受容され、戦争を起点にどう排除されていたかを明らかにし、埋もれた歴史の記憶を掘り起こすことを目的とした。

構築した「写真アーカイブ」は広く公表し、ニューカレドニア日本人移民研究だけではなく、オセアニアの多岐にわたる地域研究、ニューカレドニアの日系社会にも寄与したいと考えた。

3. 研究の方法

(1) ニューカレドニア政府公文書館、フランスの国立海外文書館、アメリカ国立公文書館が所蔵する写真コレクション、および個人コレクションから、本研究の対象となる写真を調査し、デジタルデータ（所蔵館からの提供あるいは自分で撮影）を収集する。個々の写真の撮影された時代、場所、撮影者、所有者（所蔵先）を記載し、ナンバリングをしてリスト化する。続いて、それぞれの写真が表象する内容を、国内外の各種史料、聞き取り、新聞記事などを検証した上で、キャプション（説明文）として書きおこす。

(2) オンライン上に作成した「写真アーカイブ」に、日本語、仏語、英語でキャプションを加え、検索できるシステムを構築する。また、閲覧者が新たな情報を投稿できるようにして、多様な人から新たな情報収集が行える場を設けた。

このアーカイブの名称は、2006年に開催されたニューカレドニアの日本人移民史を大々的に紹介した展覧会（ニューカレドニアのチバウ文化センターなどで開催、展示コミッショナーは津田睦美）のタイトル『FEU NOS PERES』の頭文字をとったものである。意味は「私たちの亡き父」で、戦争で父親と生き別れた日系二世の追慕がテーマであった。現在、FNPという言葉は、ニューカレドニア社会で、日本人移民史を表す言葉として周知され利用されるように

なっている。

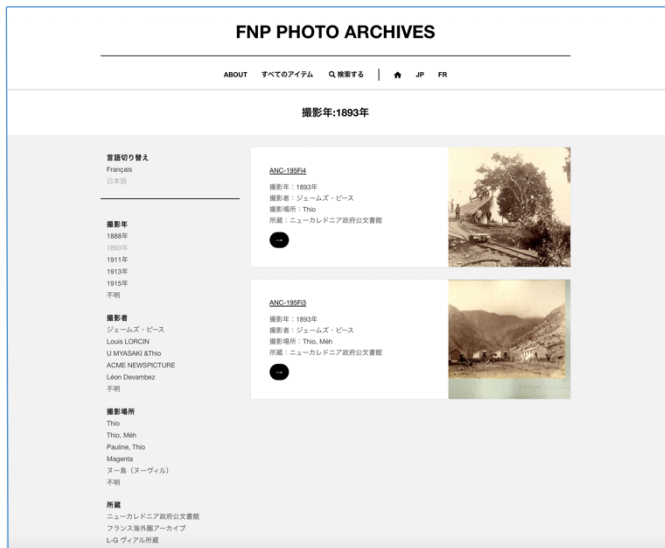
(3) 本写真アーカイブは、まず、関係者（ニューカレドニア日系社会や地域社会）や研究者に公開し、多様な視点からの意見をもらった上で修正を行い、一定の試用期間を経た後、ニューカレドニア政府公文書館で公開する（所蔵先と相談の上、著作権、肖像権に細心の注意をはらって行く）。

4. 研究成果

コロナウイルス蔓延の時期と重なった本研究は、研究期間を2年延長した上でようやく終了した。予定通りの出張ができず、調査には不十分な点も残るが、それでもなんとかアーカイブとして公開できる目処がつくところまで辿り着いた。これで、ニューカレドニア、フランス、アメリカの公文書館が所蔵する、ニューカレドニア日本人移民に関する写真の収集は終了したとする。以下、実際のアーカイブも画面の一部である。写真を所蔵先、年代、撮影場所、撮影者などで検索できるように分類し、それぞれに情報を書き込んでいる。また、閲覧者が新たな情報を書き込めるように設計し、進化するアーカイブを目指す。



冒頭、アーカイブの名称と概要の説明



撮影年による検索結果



個々の写真の情報ページ（一部分）

今後、ニューカレドニア政府公文書館での本アーカイブ公開に向け、翻訳、利用方法などの点検作業を行い、より実用的なアーカイブとして完成させ、次世代の研究者や、日系社会で活用できるようにしていきたい。

一方、国外での調査が滞った一方、1893年に撮影された数枚の写真の表象研究のために熊本県を訪れ、明治25年の初回移民に関する綿密な調査を行った。それにより、天草からの初回出稼ぎ移民に関する新しい写真と史料の発掘という研究成果を残せた。

また、収集した写真は、今後、「移民写真」というカテゴリーの先駆けとして研究会などで発表し、新たな研究活動に発展させたいと思う。

5. 主な発表論文等

○リサーチノート

「仏領ニューカレドニア初回出稼ぎ移民再考」(1)誰が天草から500人を送り出したか」

関西学院大学『総合政策研究』 pp.55-69, 2020

「仏領ニューカレドニア初回出稼ぎ移民再考」(2)写真メディアから読み取る移民の実態」

関西学院大学『総合政策研究』 pp.135-154, 2021

「仏領ニューカレドニア初回出稼ぎ移民再考(3) 明治の新聞記事にみる移民の実相」

関西学院大学『総合政策研究』 pp.119-136, 2022

○学会研究発表

「写真にみる仏領ニューカレドニアの日本人」2019 日本仏学史学会

「仏領ニューカレドニア、熊本からの初回出稼ぎ移民 -新たな史料を中心に-」

2020 日本移民学会

○展覧会「Les Japonais à Thio, 130ème anniversaire d'arrivée des Japonais en NC」

場所 ニューカレドニア政府公文書館 会期 2023年2月18日から7月末(予定)

企画 津田睦美 ニューカレドニア政府公文書館

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 津田睦美	4. 巻 64
2. 論文標題 仏領ニューカレドニア初回出稼ぎ移民再考(3) 明治の新聞記事にみる移民の実相	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 関西学院大学『総合政策研究』	6. 最初と最後の頁 119-136
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 津田睦美	4. 巻 37
2. 論文標題 天草からの仏領ニューカレドニア出稼ぎ移民～130年前の写真からみえたこと～	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 潮騒	6. 最初と最後の頁 32-39
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 津田睦美	4. 巻 62
2. 論文標題 「仏領ニューカレドニア初回出稼ぎ移民再考」（1）誰が天草から500人を送り出したか	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 関西学院大学『総合政策研究』	6. 最初と最後の頁 55-69
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 津田睦美	4. 巻 63
2. 論文標題 「仏領ニューカレドニア初回出稼ぎ移民再考」（2）写真メディアから読み取る移民の実態	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 関西学院大学『総合政策研究』	6. 最初と最後の頁 135-154
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 津田睦美
2. 発表標題 「仏領ニューカレドニア、熊本からの初回出稼ぎ移民 - 新たな史料を中心に - 」
3. 学会等名 日本移民学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 津田睦美
2. 発表標題 Le destin des enfants japonais en Nouvelle-Caledonie entre 1941 et 1960
3. 学会等名 KODOMO NO KUNI REPLAY 展 (FRAC Grand Large, France) (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 津田睦美
2. 発表標題 「写真にみる仏領ニューカレドニアの日本人」
3. 学会等名 日本仏学史学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 津田睦美
2. 発表標題 「仏領ニューカレドニア初回日本人出稼ぎ移民の実態再考 - 天草を中心に - 」
3. 学会等名 日本移民学会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

展覧会「Les Japonais a Thio, 130eme anniversaire d l'arrivee des Japonais en NC」
場所 ニューカレドニア政府公文書館 会期 2023年2月18日から7月末(予定) 企画 津田睦美 ニューカレドニア政府公文書館

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------